

令和 7 年度 経営情報学科 自己点検・評価報告書

令和 8 年 3 月

本報告書における点検・評価のテーマ／基準／区分は、(一財)大学・短期大学基準協会の定める項目のうち、学科/専攻科として対応すべきものを抽出したものである。

[テーマ 基準 I -B 教育の効果]

[区分 基準 I -B-1 教育目的・目標を確立している。]

点検・評価の観点
□ (1) 学科又は専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
□ (2) 学科又は専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。
□ (3) 学科又は専攻課程の教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
□ (4) 学科又は専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。

<現状>

学科の教育目的及び目標を、建学の精神に基づき確立している。詳細は学生生活のしおりに記載している。また学科の教育目的及び目標をホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。

<課題>

学生に対して、学科の教育目標をより意識した学生生活を送ってもらえるように、継続的な施策実施が必要。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

入学時および各学期初めのオリエンテーションで、学生に対して教育目標を周知し、学生アンケートや授業改善レポート、Web シラバスのアンケートなどを利用して、学生の現状を踏まえた教育目標の点検・見直しを実施してきた。加えて、ゼミなどを通じた働きかけも強化していきたい。

[区分 基準 I -B-2 学習成果を定めている。]

点検・評価の観点
□ (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
□ (2) 学科又は専攻課程の学習成果を学科又は専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
□ (3) 学習成果を学内外に表明している。
□ (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

<現状>

学習成果（能力基準別到達目標）は、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づいて定められており、「学生生活のしおり」や Web シラバスにおいて各科目の「学修成果別評価基準（ルーブリック）」として示し、学内外に表明している。また、Web シラバスシステムを活用して学生の学習成果をレーダーチャートなどで可視化し、定期的に点検するとともに、各教員が学期ごとに授業改善レポートを作成している。

<課題>

各教員に対する学生からの授業評価は非常に高い。今後もこれを継続していく必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

Web シラバスのアンケートやリアクションペーパーなどを利用した双方向型授業を徹底

し、より学生から評価される授業・教育実施を目指す。また質問・疑問自体の評価を学生にフィードバックする。

[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

点検・評価の観点
□ (1) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに、組織的議論を重ね、三つの方針を関連付けて一体的に策定し、学内外に表明している。
□ (2) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。
①卒業認定・学位授与の方針は、学習成果に対応し、卒業の要件、資格取得の要件を明確に示している。
②卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。
③卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。
□ (3) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。
①教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
②教育課程編成・実施の方針を定期的に点検している。
□ (4) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。
①入学者受入れの方針は、学習成果に対応している。
②入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。
③入学者受入れの方針を、高等学校等関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

<現状>

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。各教員は、これら3つのポリシーを踏まえた上でシラバスを作成し、教育活動を展開している。

<課題>

新カリキュラム（新教育課程表）が完成年度を終えたが、今後も新カリキュラムの教育意図を教員・学生にさらに深く理解してもらう必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

今後も変更の必要に応じてカリキュラムの見直しを検討する。

[テーマ 基準 I-C 社会貢献]

[区分 基準 I-C-1 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

点検・評価の観点
□ (1) 社会への貢献についての取組みに関する方向性を示している。
□ (2) 地域・社会への貢献に取り組んでいる。

①地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施している。
②地方自治体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。
③教職員及び学生はボランティア活動等を行っている。
□（3）地域・社会への貢献についての取組みを定期的に点検している。

<現状>

2年後期の「生涯学習概論」において、富山駅周辺の課題を発見し、その解決策について検討した（詳細は富山短期大学ホームページ「学生目線で考える富山駅周辺の課題」に記載）。また、県民に役立つとともに本学の特色をアピールできる魅力的な公開講座を積極的に実施し、そのための効率的かつ効果的なPRを行っている。さらに、地域連携センターが統括する「富山短期大学公開講座」に注力し、4講座を担当している（詳細は「令和6年富山短期大学地域連携活動年報」に記載）。

<課題>

公開講座をはじめとする各種地域連携事業について、地域連携活動が更に伝わるよう、可視化や情報発信の強化が必要である。一方で、教職員の減少が続いているので、行うべき地域連携授業の「選択と集中」を考えていく必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

公開講座では教員の専門性を活かし、開講時期や内容を見直し、学生の「いみず学生アイディアコンテスト」など地域に根ざした活動への参加を促し、その成果を可視化する。地域課題解決に向けた研究活動を推進し、競争的資金を獲得しながら地域との連携を深め、その成果を情報発信に繋げていく。

今後も引き続いて、地域連携事業を統括している（教育研究部の）「地域連携センター」に地域連携事業の「選択と集中」の必要性を提唱する。

[テーマ 基準 I-D 内部質保証]

[区分 基準 I-D-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

点検・評価の観点
□（1）自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。
□（2）定期的に自己点検・評価を行っている。
□（3）定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
□（4）自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
□（5）自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
□（6）自己点検・評価及び認証評価の結果を改革・改善に活用している。

<現状>

学内の「自己点検・評価委員会」の指導に従い、学科として定期的かつ組織的に自己点検・評価を行い、公表している。

<課題>

学科内の教員が、学科の「自己点検・評価」についてより関心を深める必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

学科長・副学科長による、学科教員への啓発を行う。

[区分 基準Ⅰ-D-2 教育の質を保証している。]

点検・評価の観点
☐ (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
☐ (2) 査定の手法を定期的に点検している。
☐ (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
☐ (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

<現状>

シラバスにおいて学習成果の基準を示すとともに、実際の学生の到達成果については「授業改善レポート」の提出とそのチェックを行うことで質的保証を図っている。また、シラバスの点検と改善については、教務担当の総合学務センター委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って各教員の Web シラバスのチェックを実施し、現時点の基準に対応していないものについては修正を依頼している。さらに、問題がある場合には各教員にフィードバックを行い、修正を計画している。

<課題>

PDCA として回している意識が学科内で徹底されていない。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

学科長・副学科長による、学科教員への啓発を行う。

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 卒業認定・学位授与の方針に従って、単位授与、卒業認定や学位授与を適切に行っている。]

点検・評価の観点
☐ (1) 単位授与の要件を定めている。
☐ (2) 単位授与、卒業認定や学位授与に関する要件を周知している。 ①単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限設定等を行っている。
☐ (3) 単位授与、卒業認定や学位授与が適切に運用されていることを点検している。
☐ (4) 進級判定がある場合は周知している。

<現状>

上記の「点検・評価の観点」と、学則第2条の2「学科の目的」に照らし点検を実施したが、特に問題はなかった。

<課題>

今後も継続していく。

<特記事項>

特になし。

＜改善計画＞

今後とも、定期的に点検していく。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。]

点検・評価の観点
□ (1) 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。
2 学習成果に対応した、授業科目を編成している。
②専門職学科においては、当該学科の専攻に係る職業の状況等を踏まえて授業科目の開発及び編成を行っている。
3 シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、予習・復習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
4 学生による授業評価を定期的に受けて、授業改善に活用している。
5 授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
⑥通信による教育を行う学科又は専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
□ (2) 教育課程の見直しを定期的に行っている。
□ (3) 専門職学科の授業科目の開発、教育課程の編成及びそれらの見直しにおいて、教育課程連携協議会の体制・役割が明確である。

＜現状＞

「新学習指導要領・情報活用能力の育成・ICT 活用」により高等学校では「情報Ⅰ」が共通必修科目となり、すべての高校生がプログラミングやネットワーク、データ活用について学習する時代が始まったことを踏まえ、本学科でもデジタル化技術が加速する社会を見据えてDS（データサイエンス）やDX（デジタルトランスフォーメーション）教育をさらに取り入れている。その一環として、本年度中に情報分野の専門科目「データ科学実践」が文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定を受けた。また、その他の点についても自己点検を行ったが、いずれも問題はなかった。

＜課題＞

時代の要請に合わせて、DS、DX 教育をさらに発展させる。

＜特記事項＞

特になし。

＜改善計画＞

情報分野の専門科目「データ科学実践」の履修率をさらに増加させ、学生一人ひとりのデジタルスキルを向上させる。また、デジタル教育について全学との歩調を合わせながら、学科内でも徹底する計画である。

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

点検・評価の観点
□ (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。
□ (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。
□ (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

＜現状＞

短期大学設置基準に則り、幅広く深い教養を培うことを目的として教養科目を編成し実施体制を確立している（詳細は学生生活のしおりに記載）。また、教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。さらに、専門科目との関連性を踏まえながら総合教養科目や外国語・体育科目など教養教育の改革・再編を図っている。加えて、教養演習では、読解力、不理解箇所の調査力、内容の整理力、資料の作成力、発表のプレゼンテーション力といったビジネスパーソンに必要とされる基礎的能力の習得を目的とした教育を行っており、各教員が少人数制によるきめ細やかな個別指導を行うことで、学問修得の面だけでなく、ディスカッションやコミュニケーションを通じて社会常識を確認し、人間的成長を図ることも目指している。

<課題>

数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な理解や関心を高める教養科目（「人間と情報」）が好評となった。さらに情報分野の専門科目で文部科学省から「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(応用基礎レベル)」の認定を受けた「データ科学実践」を同じように軌道に乗せ、教養と専門との連続性を実現する必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

情報分野の専門科目「データ科学実践」を同じように軌道に乗せ、教養と専門との連続性を確保し、教育体制を充実化させる。今後も必要に応じ、学生の幅広く深い教養の涵養に向けた各種改善を図る。

[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は実際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

点検・評価の観点

- (1) 学科又は専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
- (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

<現状>

本年度も夏季休暇を利用して約 50 の企業・団体において 1 年生のほぼ全員が参加し、5 日間から 10 日間の就業体験としてインターンシップを実施した。また、12 月にはその成果をプレゼンする学内発表会を開催し、体験内容の情報共有とプレゼンテーション能力の養成を図った。さらに、インターンシップの効果を高めるため、企業・団体からの評価票を学科教員で共有し、就職指導等に活用している。

<課題>

「評価票」の電子化（ペーパーレス化）

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

対象となる企業団体からの理解・承諾を獲得して実現したい。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果]

[区分 基準Ⅱ-B-1 短期大学及び学科又は専攻課程において、学習成果は明確である。]

点検・評価の観点

- (1) 学習成果に具体性がある。

- | |
|---------------------------|
| □ (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。 |
| □ (3) 学習成果は測定可能である。 |

<現状>

総合学務センター委員（教務担当）が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って各教員の **Web** シラバスをチェックし、「能力基準別評価方法」「ルーブリック」「シラバス」の点検と改善を行うとともに、現時点の基準に対応していないものについては修正を依頼している。また、「授業アンケート」を踏まえ、学修成果の到達度や変化の把握とその要因の分析について、各教員が授業改善レポートにおいて実施している。

<課題>

学科内で学科 **FD** か、それに準ずる取り組みを実施する必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

スケジュールの都合で、学科内 **FD** がなかなか実現できていないので、他の教員のシラバスを参考にしたり、他の教員の授業見学などを、学科として奨励していきたい。

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得状況を適切に評価している。]

点検・評価の観点
□ (1) 各授業科目の学習成果は、学科又は専攻課程の学習成果に対応している。
□ (2) 教員は、成績評価基準等により学習成果の獲得状況を適切に評価している。
□ (3) 教員の成績評価の状況について把握し、点検している。

※基準Ⅱ-B-1 と同じ（短期大学評価基準の改訂により、基準Ⅱ-B-1 と B-2 は1つに集約されている。）

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

点検・評価の観点
□ (1) GPA 分布、単位修得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
□ (2) 学生調査や学生による自己評価などを活用している。
□ (3) インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
□ (4) 卒業生への調査、卒業生の進路先を対象とする調査などを活用している。
□ (5) 測定した結果を学習成果の点検に活用している。

<現状>

学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みとして **Web** シラバスシステムがあり、教職員により活用されている（詳細は教務部で記載のため省略）。また、学生アンケートや大学編入学率、就職率などのデータを活用して学習成果を測定しており、これらのデータ等をもとに評価した学習成果を学内外に公表している。

<課題>

授業評価アンケートや学修行動・生活調査などの回答率を上げる必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

各種アンケート調査の回答率を維持・向上させるための方策について検討し、総合学務センター委員会での提起を行い、改善を目指す。

[区分 基準Ⅱ-B-4 学習成果の獲得状況の公表に努めている。]

点検・評価の観点
☐ (1) 学習成果の獲得状況について、可視化した根拠がある。
☐ (2) 学生に獲得した学習成果を自覚できるように、根拠を基に説明している。
☐ (3) 学習成果の獲得状況について、根拠を基に公表することに努めている。

<現状>

基準Ⅱ-B-3 の現状③に記載。

<課題>

基準Ⅱ-B-3 の課題と同じ

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

基準Ⅱ-B-3 の改善計画と同じ

[テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-D-1 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
☐ (1) 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
☐ (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
☐ (3) 学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
☐ (4) 学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
☐ (5) 学生に対して履修及び卒業に至る指導・支援を行っている。
☐ (6) 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。
☐ (7) 基礎学力が不足する学生や進度の遅い学生に対し補習授業等を行っている。
☐ (8) 進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
☐ (9) 通信による教育を行う学科又は専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
☐ (10) 図書館等に専門的職員その他の専属の教員又は事務職員等を配置し、学生の学習向上のために支援を行っている。
☐ (11) 学生の海外への派遣（長期・短期）を行っている。
☐ (12) 学習成果の獲得状況を示す量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。

<現状>

成績評価や各種学生アンケート結果については、履修生の成績やアンケート結果を収集し、フィードバック方法やアフターケアの充実について各教員が授業改善レポートで点検・検討を行っている。学生の成績は **GPA** 評価を付加した資料として開示し、ゼミ担当教員が個別指導を実施している。また、出欠管理を徹底し、4 回以上欠席した学生には保護者へ郵送で連絡しているほか、成績不振学生については大学祭期間中に保護者懇談会を実施し、情報共有を行っている。

授業外学修時間の確保のため、**Web** シラバスを活用した反転授業を実施し、その効果を授業改善レポートで検証している。科目によっては **Google Classroom** や録画授業を活用し、授業外学習を促進している。図書館環境の改善として、専任教員が学生に薦める専門分野の書籍を整備するとともに、新聞・雑誌の閲覧コーナーを設置し、6 紙の新聞の読み比べを推奨している。

また、入学前セミナーで入学までの課題を説明する入学前指導を行うとともに、オフィスアワーを活用した個別対応や、資格取得・編入学に関する個別指導など、学科独自の学習支援を実施している。

<課題>

成績不良の改善に向けて、自ら対応できない資質をもつ学生が増えていることが課題となっている。また、学科独自の個別的な学習支援を実施するために、長期休暇・休日・時間外などを利用せざるを得ない状況が続いており、担当教員への負担が大きくなっている。そのため、今後は効率的かつ効果的な個別対応の方策を検討する必要がある。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

対象となる学生の各授業における理解度や状況を学科教員全員で共有し、それを各授業での個別指示や支援に生かすとともに、必要に応じてゼミ担任による面談指導を行う。また、効率的かつ効果的な個別対応に向けて、専任教員全員が担当する「大学教育と学修」（1 年次）の指導を通じて自主学習の習慣化を促し、図書館利用の促進や、各種媒体・ツールを活用した指導方法について検討・実施していく。

[区分 基準Ⅱ-D-2 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
□ (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
□ (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
□ (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
□ (4) 宿舍が必要な学生に支援（学生寮、宿舍のあっせん等）を行っている。
□ (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。
□ (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
□ (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
□ (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
□ (9) 留学生在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
□ (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
□ (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。

□ (12) 長期履修生を受け入れる体制を整えている。
□ (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

<現状>

総合学務センター（教育研究部）および健康支援センター（運営管理部）と連携し、学生の生活支援を積極的に行っている。なお、学生への支援や相談対応は主にゼミ担任が担当している。

<課題>

カウンセリングを必要とする学生や、母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えてきている。

<特記事項>

特になし。

<改善計画>

総合学務センター（教育研究部）・健康支援センター（運営管理部）との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

[区分 基準Ⅱ-D-3 進路支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
□ (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
□ (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
□ (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
□ (4) 学科又は専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
□ (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

<現状>

学生の就職支援は各ゼミナールの担当教員が少人数体制で行っているため、学生一人ひとりの資質に応じたきめ細かな指導が可能である。求人票は場所や時間を問わず閲覧できるWeb方式を採用。キャリア支援センターが管理する資料室では、過去の受験報告書の確認に加え、筆記試験やWebテストの対策学習も行える。

さらに、学科教員全員とキャリア支援センターが就職状況をリアルタイムで共有できるWebシステムを運用し、支援が必要な学生を迅速にフォローできる体制を構築しており、進学面でも、編入学情報をWebで公開しているほか、長期休暇中などの正課外でも英語等の対策講座を実施し、手厚い支援を行っている。

卒業後の企業団体での様子については企業団体へのアンケート調査により情報収集し、その結果は学科内教員で共有しビジネス実務演習（授業）のなかで在学学生に反映している。

（企業団体からのアンケート調査結果を最終ページに掲載する）

※補助金の都合でこのコメント（卒業生意見&企業要望を授業で反映）が必要です
また、調査結果の掲載（最終ページ）が必要です。

<課題>

就職活動の困難な学生への対応策。

<特記事項>

特になし

<改善計画>

学科内教員とキャリア支援センター、ハローワーク等が連携し、学生の希望する進路に応じた柔軟な指導を行っていく。

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

[区分 基準Ⅲ-A-2 教員は、教育課程編成・実施の方針に基づき教育研究活動を行っている。]

点検・評価の観点
□ (1) 専任教員又は基幹教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等）は教育課程編成・実施の方針に基づき成果をあげている。
□ (2) 専任教員又は基幹教員は、科学研究費補助金等の外部資金を獲得している。
□ (3) 専任教員又は基幹教員の研究活動に関する規程等を整備し、研究環境の整備に努めている。
□ (4) 専任教員又は基幹教員の研究倫理を遵守するための取組みを定期的に行っている。
□ (5) 専任教員又は基幹教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。
□ (6) 専任教員又は基幹教員の研究、研修等を行う時間を確保している。
□ (7) 専任教員又は基幹教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。

<現状>

教育活動においては、授業アンケートの総合評価値が 4 点満点中 3.2 以上となっており、学生の満足度は概ね良好であると判断できる。研究活動においては、学外の学会などで研究成果を発表するなど、積極的に研究活動を行っている。

<課題>

配慮学生が年々増え、その指導に要する時間増により研究活動等に割ける時間が減る傾向にある。よって、配慮学生の指導時間の確保のため、学科内で情報を共有し対応方法を体系化することが課題である。

令和7年度 本学卒業生の事業所・企業等就職先訪問 報告書
— 卒業生(令和7年3月卒)の状況報告書集計 —

経営情報	学科
------	----

調査卒業生数	46名
--------	-----

評価項目	A (良い)	B (やや良い)	C (普通)	D (やや悪い)	E (悪い)
1. 礼儀・基本的マナー	61%	22%	17%	0%	0%
2. チームワーク [チームで働く力]	50%	35%	13%	2%	0%
3. アクション [前に踏み出す力]	39%	37%	20%	4%	0%
4. シンキング [考え抜く力]	39%	33%	24%	4%	0%

5. その他、応対者のコメント

- ・真摯に業務と向き合い日々取り組んでいる。自分なりに考えたことを整理し先輩方に助言を求めている。
- ・配属店舗では久しぶりの新入社員でスタッフの雰囲気も明るくしてくれ、お客様対応も丁寧で助かっている。
- ・誰にでも笑顔で接してくれ周囲になじもうと努力している。
- ・最初は何でもチャレンジして失敗をする時期。スキルや知識は後でも高められるので今は行動を重視。
- ・非常に意欲的で前向きな姿勢で評価できる。課題にも積極的に挑戦し責任感を持って業務を遂行している。
- ・向上心、問題意識をもって仕事をしていただきたい。
- ・ExcelやPPTでの資料作りもさっとこなす感心しますが、固定電話の対応が怖くて出れず克服できない。
- ・AIを活用しながら自ら考えて成果物を作成できる。
- ・優先順位を自分で考えて行動でき、新入社員としては仕事が早い。
- ・真面目で仕事に責任をもって最後までやり遂げる意識が強い。プログラミング経験がないので困難がある。
- ・礼儀に関しては申し分なくいつも元気に挨拶している。ただ協調性において自分が一番と思う節がある。
- ・PCスキルやマナーをきちんと習得して入社されるので基礎がしっかりしている。業務も習得が早く助かっている。

6. 大学に要望すること

- ・これまで以上のコミュニケーション能力の向上。
- ・富短出身者は基本的なビジネスマナーや文章の送り方など基本知識があるため入社後とても役立っている。
- ・学業や就職する為のスキルも大切だが社会活動を充実させてほしい。
- ・基礎的な力と前向きな姿勢は十分養われている。今後は協同や自発的な行動力、実践力のある人材育成。
- ・自然な挨拶、時間とルールを守る。ゲームから抜けられない者は早期退職につながる。
- ・ITの発達やリモートワークの普及で非対面が増え、対面による会話の理解力が重要(傾聴力)
- ・固定電話の対応が苦手と思われるので、PCのスキルと同様に電話対応のスキルも必要。
- ・AIの活用、チームで働く力、タイムマネジメント。
- ・座学で得る知識以上に現場での経験がその後の人生設計に影響すると考える。五感に触れる授業を。
- ・何かに躓いた時諦めず対応する能力、スケジュールやタスク管理する能力、物事を俯瞰的に捉える能力。
- ・報連相の習慣、論理的な考え方、資料作成、プレゼン力、時間管理、自己管理の必要性。
- ・本質を見抜く力。表面的ではなく背景や理由を理解する能力。

7. 来年度の求人について

- ・生産職、企画職、営業職募集。
- ・エンジニア職(システムエンジニア・ITインフラエンジニア)募集。
- ・建設業に興味のある若手の人材を確保したい。
- ・営業、設計、生産管理、品質管理(検査業務)、情報システム(社内SE)募集。
- ・総合職(設計、製造、営業、事務)募集。
- ・2026年3月より会社説明会開催予定。
- ・現在多くの人材を受け入れる体制ではないが全国指定管理施設勤務希望者がいれば雇用を進めたい。

8.卒業生からの声

- ・短大で学んだ会計の基礎知識が今役立っている。学び続ける姿勢を大切により成長していきたい。
- ・ビジネスマナーで学んだことがお客様との会話で活かしている。
- ・秘書実務で学んだ電話対応や接客業務が役に立っている。今後も学んだ知識を活かしてがんばりたい。
- ・先輩方に支えていただきながら精神的にも充実した日々を送れている。人間関係の不満、不安は無し。
- ・年上の人との会話に慣れておいたほうが良い。遅刻するときは連絡を入れゆっくり行ったほうが良い。
- ・やりがいのある職種で働く仕事ややる気が出た。
- ・覚えることも多く大変と感じることもあるができないことができるとうれしい。職場の人も明るく面白い。
- ・短大で学んだPCスキルが活かしている。エクセルは頻繁に使用するので在学中に学ぶことができ良かった。
- ・仕事内容で不明な点は必ず上司や同僚に確認する。仕事は徐々に覚えていくしかないので効率よく進める為にも上司や先輩との良い関係を築くことが大事。
- ・他部署とのかかわりが多いため適切な距離感でのコミュニケーションや敬語の使い方等学んだほうが良い。
- ・簿記とエクセルは業務にとても役立っている。電話対応の授業を取っておいの方がよかった。(必修でも可)
- ・会社見学時、優しく温かい雰囲気だったのでこの会社を選んだ。仕事内容もやりがいもピッタリだった。
- ・仕事の流れを一通り経験することができた。残業も一度30分程度のみで昼食も新人みんなで食べている。
- ・チームメンバーがフレンドリーに声掛けをしてくれ不自由なく業務出来ている。残業もほぼない。
- ・未経験なことや知識がないことに消極的にならず、興味を持った事に積極的になるべきだと思う。役に立つと思った資格は積極的に取ると就職の選択肢が増えると思う。
- ・努力を怠らず資格取得や現場への理解など挑戦していきたい。
- ・在学中に取得した資格が実務に活かしている。
- ・現在社員のサポート業務を担当している。日々の業務を通して「緑の下力持ち」としてやりがいがある。
- ・最初はできないことが多かったが周りのサポートもあり少しずつできることが増え成長を感じている。
- ・とにかくミスは恐れていては何もできないということを働いてから深く感じている。ミスを最小限にすることは大切であるが最初はできないことが多くて当たり前。最初から完璧を目指さず不明点は積極的に仲間に聞きましょう。仕事は“死ぬ気”ではなく“殺す気”で取り組み、とにかく気合です。強気でいきましょう。
- ・図書館での仕事はとても楽しい。読み聞かせで子供たちが楽しんでくれたり仕事がうまくいったときにやりがいを感じる。十進分類法を覚えておくと業務の助けになる。
- ・様々な年代の方と話す機会があるのでコミュニケーション能力が一番大切。聞く力・伝える力を身につける。
- ・同期入社の方の存在が大きく従業員の方が優しく安心して業務に携わっている。
- ・不明な点を口頭で相手にうまく伝えられないことが多くあったので、わかりやすく言葉で伝える力をもっと身につけておけばよかった。在学中のPCスキルのおかげで入社後の基本的な操作に困らなかった。
- ・資料を多く作成するためエクセルやタイピングの練習は勉強しておいてよかった。仕事上多くの人と話をするのでコミュニケーション力が必要だと感じた。
- ・実技授業(エクセル・ワード)に多く取り組んだので職場での資料作りにたいへん役立った。
- ・体調を崩すことが多く自責の念に駆られるが周りのフォローのおかげで勤務できている。失敗をたくさんしてきたが丁寧かつ最低限の指導で次もがんばろうという気持ちになれる環境があると感じている。
- ・常に貴重な体験だと感じている。短大で学んだ言葉遣い、マナー、ビジネスメールの書き方などとても役立っている。目上の方や企業の方とのメールのやり取りがとても良い経験になっている。
- ・まだまだ分からないことが沢山あるので上司や先輩に教えてもらいながら業務にあたっている。短大時代の座学ではなく実演でのビジネスマナーの講義や代表として発表させていただいた経験が自信になっている。
- ・専門知識と同様に多様な世代との円滑なコミュニケーション能力やビジネスマナーが重要。男女、年齢に関係なくグループワークなど対人スキルや主体性を磨く機会を増やしてほしい。
- ・パソコン操作、ビジネスマナー、コミュニケーション力など仕事をするうえで欠かせない知識や姿勢を短大で身につけることができ今働くうえで大きな力となっている。自己分析を多く取り入れた授業があったことで自分に合った職業を選択することができた。
- ・合同説明会等は積極的に参加したほうが良い。
- ・先輩が優しく人間関係での困りごとはない。就活は笑顔で質問を積極的にしたら良い。
- ・研修で学んだ「正しい敬語の使い方やクッション言葉、報連相」が業務に活かされている。就職当初は仕事に慣れることができるか、周りの方と良好な関係を築けるか不安を感じていたが、今では仕事のやりがいも感じ達成感も実感している。社会人になってとても楽しい。
- ・社会人になってエクセルを使う機会が多く、海外とのやり取りもあるため英語もある程度使えると良い。

以上